

第1回
みやき町新しい教育環境づくり検討委員会
会議資料

- ①学校施設一覧及び耐力度調査結果
- ②学校適正規模の定義及び学校配置現状

令和7年6月18日

①学校施設一覧及び耐力度調査結果

1. 学校施設一覧

施設名称	建築物	延床面積 (㎡)	構造	建築 年度	経過 年数	耐力度 (調査対象の み)
給食センター	学校給食共同調理場	776	鉄骨造	2004	21	
三根西小学校	普通教室・特別教室	3,322	鉄筋コンクリート造	1980	45	
	室内運動場	758	鉄筋コンクリート造	1987	38	
	プール	1,165	運動場用等プール	1966	59	
三根東小学校	管理棟	927	鉄筋コンクリート造	1990	35	
	普通教室・特別教室棟	2,496	鉄筋コンクリート造	1973	52	
	屋内運動場	702	鉄筋コンクリート造	1972	53	
	プール	1,106	運動場用等プール	1962	63	
中原小学校	屋内運動場	1,192	鉄筋コンクリート造	1972	53	
	特別・普通教室棟	3,985	鉄筋コンクリート造	1970	55	5401
	北教室棟	1,990	鉄筋コンクリート造	1977	48	
	給食室	270	鉄骨造	1977	48	
	プール	1,204	運動場用等プール	1978	47	
北茂安小学校	講堂及び地域・学校連携施設	1,924	鉄筋コンクリート造	1991	34	
	管理棟・普通教室棟	1,841	鉄筋コンクリート造	1963	62	4277
	普通教室棟	1,407	鉄筋コンクリート造	1984	41	
	特別教室棟	2,055	鉄筋コンクリート造	1982	43	
	普通教室棟	1,842	鉄筋コンクリート造	1983	42	
	プール	1,275	運動場用等プール	1989	36	
三根中学校	屋内運動場	1,485	鉄筋コンクリート造	2006	19	
	校舎	4,840	鉄筋コンクリート造	2008	17	
中原中学校	玄関	234	鉄筋コンクリート造	1975	50	
	屋内運動場	1,447	鉄筋コンクリート造	1981	44	
	普通教室棟	2,368	鉄筋コンクリート造	1975	50	
	特別教室棟	2,520	鉄筋コンクリート造	1975	50	
	技術室棟	368	鉄骨造	1979	46	
	プール	1,256	運動場用等プール	1978	47	
北茂安中学校	特別教室	250	鉄骨造	1970	55	
	屋内運動場	1,263	鉄筋コンクリート造	1975	50	
	特別教室棟	946	鉄筋コンクリート造	1980	45	
	普通教室・管理棟	2,132	鉄筋コンクリート造	1978	47	
	部室	300	鉄筋コンクリート造	1994	31	
	普通教室棟	2,077	鉄筋コンクリート造	1979	46	
	プール	1,040	運動場用等プール	1985	40	

※旧耐震基準の建物について、築年数を黄色で表示しています。
※耐力度調査は一部施設のみを対象に実施します。

耐力度調査とは
公立学校施設における建物の構造耐力、経年による耐力・機能の低下等の項目を総合的に調査し、建物の老朽化を総合的に評価するものです。調査の結果、所要の耐力度点数に達しないものについては、老朽化した公立学校施設を建て替える事業の対象となります。

鉄筋コンクリート造の学校建物の耐力度測定方法は、公立学校施設においての建物の構造耐力、経年による耐力・機能の低下、立地条件による影響の3点の項目を総合的に調査し、建物の老朽化を評価したうえで、改築が必要かどうかを判断するための一つの方法となります。

耐力度測定の項目は、構造耐力、健全度、立地条件の3つの大項目で構成され、それらの評点の積で耐力度を算出し、10,000 点満点で評価します。

- (A) 構造耐力
(B) 健全度
(C) 立地条件
(A) x (B) x (C) = 耐力度

3つの大項目の点数を掛け合い、4,500点以下の場合は、建替事業(危険改築事業)の補助対象となります。

①学校施設一覧及び耐力度調査結果

2. 学校写真一覧

三根西小学校



三根東小学校



中原小学校



北茂安小学校



三根中学校



中原中学校



北茂安中学校

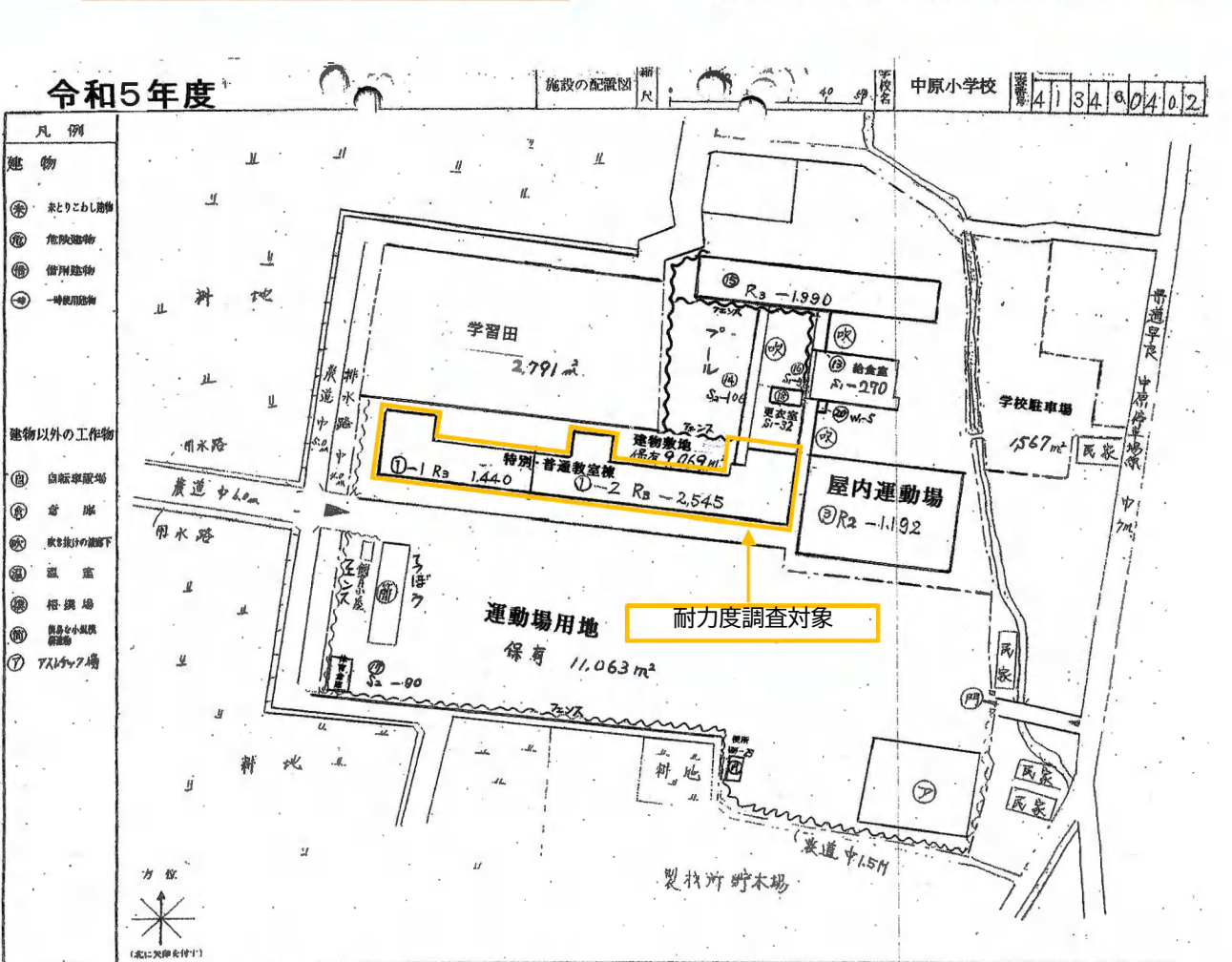


①学校施設一覧及び耐力度調査結果

3. 耐力度調査対象建物の情報及び位置図

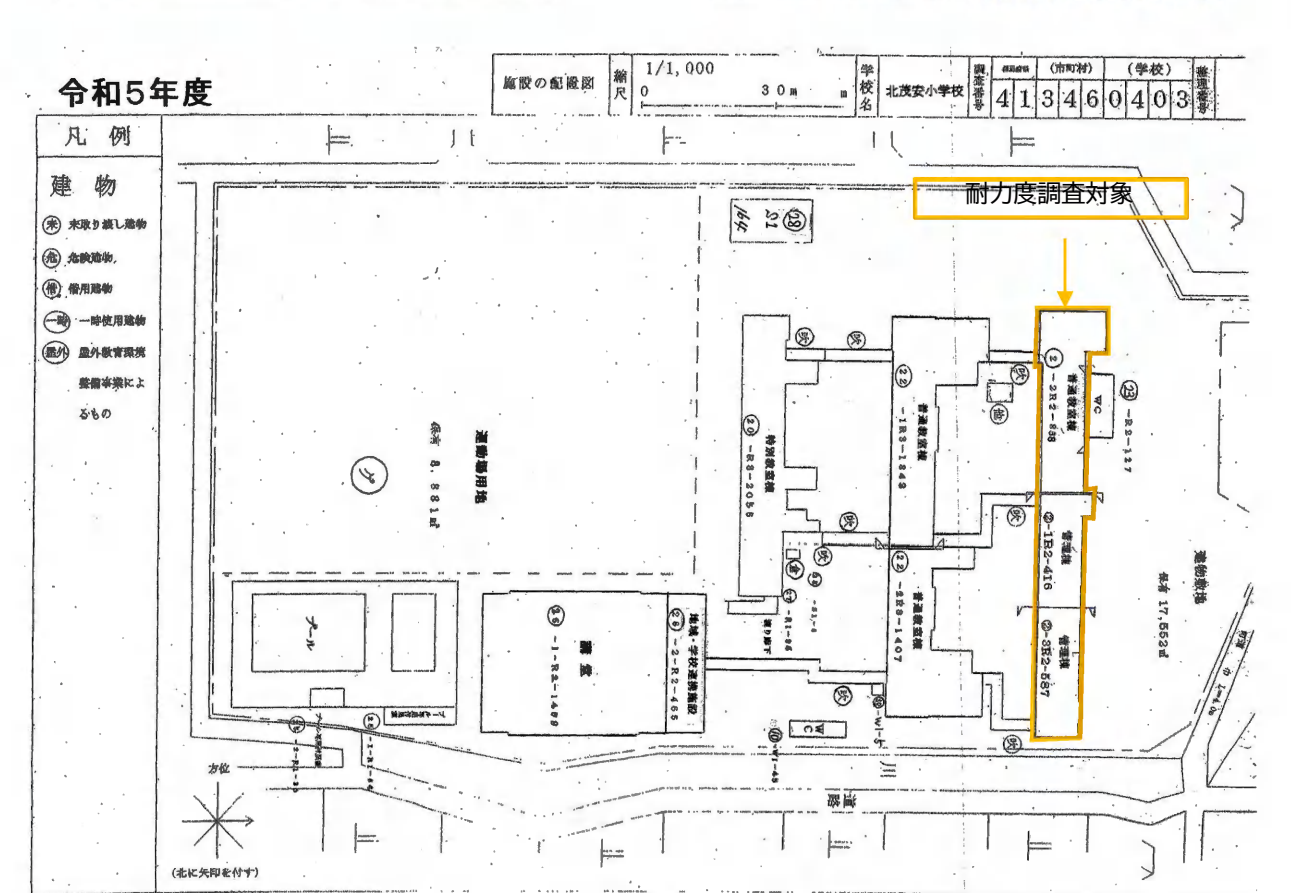
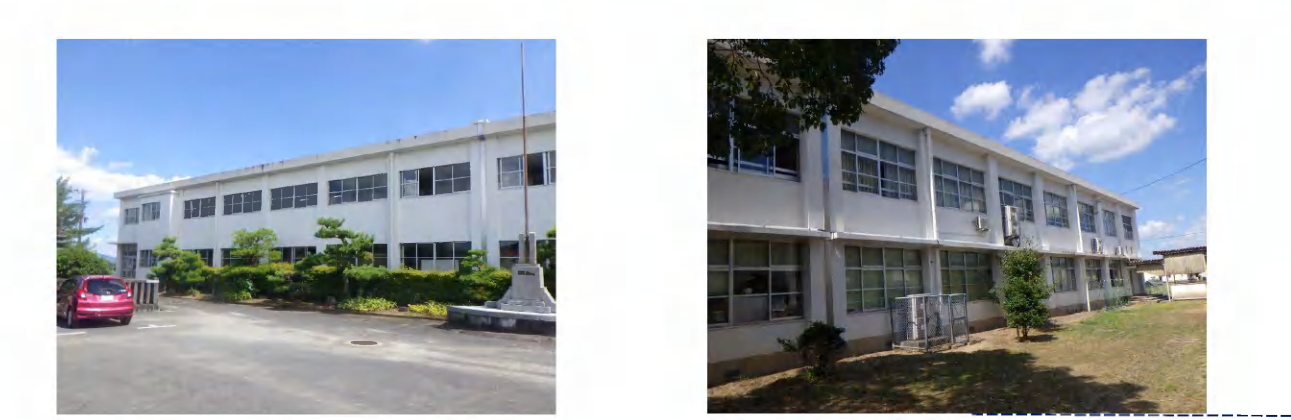
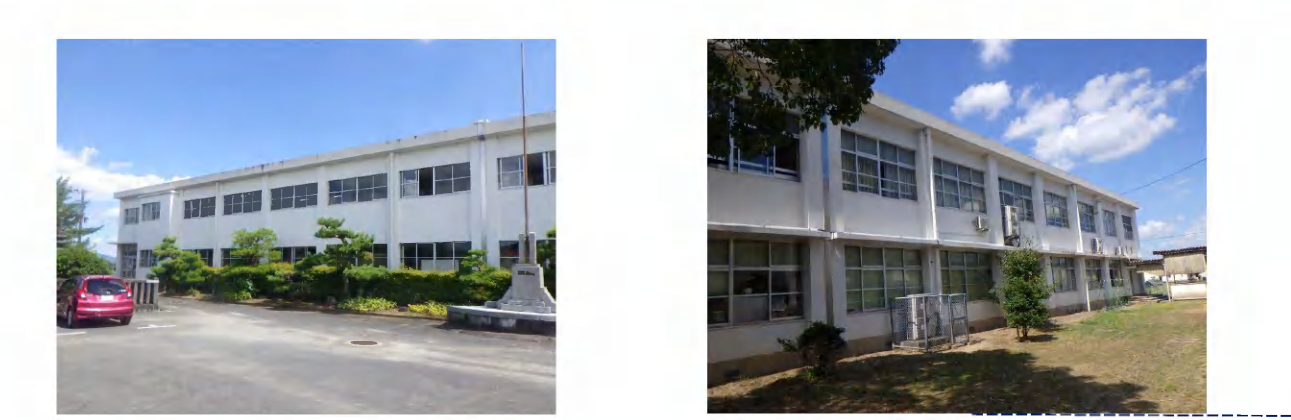
① 中原小学校

施設名称	建物名称	台帳番号	構造	階数	延床面積	建築年 (西暦)	建築年 (和暦)	築年数	耐震 基準	耐震 診断	耐震 補強
中原小学校	特別・普通教室棟	001-1, 001-2	鉄筋コンクリート造	3	3,985	1970	S45	54	旧	済	済



② 北茂安小学校

施設名称	建物名称	台帳番号	構造	階数	延床面積	建築年 (西暦)	建築年 (和暦)	築年数	耐震 基準	耐震 診断	耐震 補強
北茂安小学校	管理棟・普通教室棟	002-1, 002-2, 002-3	鉄筋コンクリート造	2	1,841	1963	S38	61	旧	済	済



①学校施設一覧及び耐力度調査結果

4. 耐力度調査の結果

① 中原小学校

別表第1 (表面)										Ⅳ 学 校 種 別		Ⅴ 整理番号		
鉄筋コンクリート造の建物の耐力度調査票										小学校				
Ⅰ 調 査 学 校	都道府県名	設 置 者 名	学 校 名	学校調査番号	調 査 期 間		令和 6 年 7 月 31 日 ～ 令和 6 年 8 月 8 日				小 学 校	結 果	点 数	
	佐賀	みやき町	中原小学校	0402	調査者	職 名	一級建築士登録番号		氏 名		④ 97	⑤ 97	⑥ 97	
					予備調査者	会社名	一級建築士登録番号		氏 名					
							東亜建設技術(株)		359360					山崎 裕也 (印)
Ⅱ 調 査 建 物	建物区分	棟番号	階 数	面積	建物の経過年数		被 災 歴		補 修 歴		58	5401		
	校舎	①-1	0+3	一階面積	建築年月	S46年	長寿命化年月	種類	被災年	内 容	補修年			
				471	㎡	3月	3月	年 月	年 月	年 月	年 月		年 月	年 月
				延べ面積	経過年数	53年	経過年数	年	年	耐震改修	H22		0.96	
	1,440	㎡												

調査 耐力	① 保有耐力	(a)	階	方向	構造耐震指標		経年指標		$q_i = \frac{(I_s/T)}{0.7}$	鉄骨定数等の係数, α	$q = q_1 \times q_2 \times \alpha$	判別式		評点		評点合計 $\textcircled{3} = (\textcircled{5} + \textcircled{7} + \textcircled{9})$ $\textcircled{97.0}$ 点														
					1	桁行方向 X 縦間方向 Y	ls	0.75				0.943	1.13	該当なし (注)	$1.0 \times 1.0 \times 1.0$		$= 1$	1.00	$\textcircled{7}$ $\textcircled{7}$ ($\textcircled{7} \times \textcircled{7}$) ($\textcircled{7} \times 50$)	50 点										
																					試験区分	壁・梁 1	壁・梁 2	壁・梁 3	平均値 F_c	$k = F_c/20$	判別式	$\textcircled{4}$	1.00	$\textcircled{6}$ (0.3以下は 0.3とする)
		(b)	コンクリート 圧縮強度 k	試験区分	コア試験	21.5	18.5	21.4	20.47	1.02	$k \leq 0.5$	判別式	1.00	$\textcircled{6}$ (0.3以下は 0.3とする)																
															1.0 ≤ k		$\textcircled{1.0}$	直補間												
																			0.5 < k < 1.0	直補間										
																					k ≤ 0.5	0.5								
																							判別式	1.00	50 点					
																										判別式	1.00	50 点		
耐力	②	層間変形角 θ	階	方向	構造耐震指標 ls	靱性指標 Fu	$F_r = F_u \times \frac{0.7}{(I_s/T)}$	θ	θ の最大値	判別式	評点	$\textcircled{5} = (\textcircled{3} + \textcircled{7})$ 97																		
													1	桁行方向 X	0.75	1.00	0.88	1/250	$\theta \leq 1/200$	$\textcircled{1.0}$	$\textcircled{4}$	$\textcircled{5}$ ($\textcircled{3} \times 20$)								
																							1	縦間方向 Y	0.78	1.00	0.84	1/250	$1/200 < \theta < 1/120$	直補間
		種別指数 u	基礎の被害予測に関する指数 p	$\beta = u \times p$	判別式	評点																								
							木 杭	敷地地盤で液状化が予想される 杭基礎でアスベト比が2.5以上の建物の RC杭	0.8	0.9	0.9		1.0 ≤ β	1.0	$\textcircled{6}$	$\textcircled{7}$ ($\textcircled{5} \times 30$)														
		基礎構造 β	③	木 杭	0.8	敷地地盤で液状化が予想される 杭基礎でアスベト比が2.5以上の建物の RC杭	0.8	0.9	0.9	0.9	$0.5 < \beta < 1.0$		直補間	0.9	27 点															
																その他	1.0	上記に該当しない場合	$\textcircled{1.0}$	口中空による低減 ^{※1)}	$\beta \leq 0.5$	0.5								
																							過去に経験した最大の被災度	無被害・被災無し	評 価	評 点				
																											軽微	小破	中破	大破
		地震による被災履歴 B	④	軽微	1.0	1.0	0.95	0.9	$\textcircled{1.0}$	1.0	1.0		1.0																	
軽微	小破											中破		大破	評 価	評 点														

註) 鉄筋コンクリート造架構の上に鉄骨屋根を載せた屋内運動場(Rタイプ)では、鉄骨屋根のRC定着部について検討する。①(保有耐力の「鉄骨定着部の係数、α」欄)には検討結果の比を、()内は最小値、又は、平均値を記載して、係数、αの算出根拠を示すこと。
註) 屋内運動場で、β算出時に一方向地中梁による低減係数0.75を考慮した場合には、「□ 地中梁による低減」にチェックすること。

健	①	経過年数 t	判別式(建築時から経過年数)				経過年数 t_e	判別式(長寿命化改良後の経過年数)				評 点		評点合計						
		経 年 変 化 T	43 年 $T=(40-t)/40 = 0.33-0.00$				年	$T=(30-t_e)/40 =$				㉞ 0.00	㉟ ㉠(㉡×25)							
	②	鉄筋腐食状況 鉄筋腐食度 F	柱				梁				グレード最低値 D		評 点	㉡(㉡×25)						
			部分的な点錆を認める				部分的な点錆を認める				0.8	0.8	20 点							
			グレード		1.0 (0.8) 0.5		1.0 (0.8) 0.5													
			柱		梁		壁		床											
			膨張亀裂、溶け出しは認められない		膨張亀裂、溶け出しは認められない		膨張亀裂、溶け出しは認められない		膨張亀裂、溶け出しは認められない											
	③	コンクリート 中性化深さ等及び 鉄筋かぶり厚さ	(a)	コンクリート 中性化深さ等 a	部 位		柱1	梁1	柱2(壁1)	梁2(壁2)	平均値 a	判 別 式		評 点		㉡(㉡+㉢+㉣+㉤+㉥+㉦)				
					中性化深さ		0.0	0.6	0.3	0.0	0.23 { }	$a \leq 1.5\text{cm}$ (1.0) $1.5\text{cm} < a < 3\text{cm}$ 直挿補間 $3\text{cm} \leq a$ 0.5		1.00 10 点						
					部 位		柱 頭	柱 脚	梁1	梁2	平均値 b	判 別 式		評 点						
鉄筋かぶり厚さ b					かぶり厚さ	2.7	2.0	3.4	1.9	2.50	$3\text{cm} \leq b$ 1.0 $1.5\text{cm} < b < 3\text{cm}$ 直挿補間 $b \leq 1.5\text{cm}$ 0.5		0.83 8.3 点							
④					躯体の状態 D	部 位		柱		梁		壁		床			グレード最低値 D		評 点	
	状 況		ひび割れが殆ど認められない			0.3mm以上多数あり		ひび割れが殆ど認められない		0.3mm以上多数あり		0.5		㉞ ㉟(㉡×20)						
	グレード		(1.0) 0.8 0.5			1.0 0.8 (0.5) (1.0)		0.8 0.5		1.0 0.8 (0.5)		0.5		0.5 10 点						
	階		相対沈下量 ϵ			スパン L		$\phi = \epsilon / L$		ϕ の最大値		判 別 式		評 点						
	下向同沈下量 ϕ		相行方向 X			横間方向 Y		相行方向 X		横間方向 Y		$\phi \leq 1/500$ (1.0) $1/500 < \phi < 1/200$ 直挿補間 $1/200 \geq \phi$ 0.5		㉞ ㉟(㉡×10)						
⑤	同沈下量 ϕ	階		相行方向 X		横間方向 Y		相行方向 X		横間方向 Y		$\phi \leq 1/500$ (1.0) $1/500 < \phi < 1/200$ 直挿補間 $1/200 \geq \phi$ 0.5		1.0 10 点		㉢(㉡×㉢×㉣)				
		省略																		
		階		相行方向 X		横間方向 Y		相行方向 X		横間方向 Y		$\phi \leq 1/500$ (1.0) $1/500 < \phi < 1/200$ 直挿補間 $1/200 \geq \phi$ 0.5		1.0 10 点						
		省略																		
		階		相行方向 X		横間方向 Y		相行方向 X		横間方向 Y		$\phi \leq 1/500$ (1.0) $1/500 < \phi < 1/200$ 直挿補間 $1/200 \geq \phi$ 0.5		1.0 10 点						
⑥	コンクリート 圧 縮 強 度 k	* 同一階6本以上のコア圧縮強度の平均値が $13.5\text{N}/\text{mm}^2$ 以下の場合に適用										判 別 式		評 点		㉢				
		階		壁・梁 1		壁・梁 2		壁・梁 3		壁・梁 4		壁・梁 5		壁・梁 6			平均値 σ			
		該当なし																		
		13.5 $\leq \sigma$ (1.0)																		
		$10 < \sigma < 13.5$ 直挿補間																		
⑦	火 災 に よ る 疲 弊 度 S	租 度		構 造 体 受 質		非構造材 半 焼		非構造材 半 焼		煙害租度		当該階の 床面積 S_0		被災率 S $S = S_0/S_0$		判 別 式		評 点		
		被災床面積 S_1		S_1		S_2		S_3		S_4						$S=0$ (1.0)		㉞		
		評価後被災 面積 S_1		S_1		S_2		S_3		S_4						$0 < S < 1$ 直挿補間				
		$S_1 = S_1 + S_2 \times 0.75 + S_3 \times 0.5 + S_4 \times 0.25 =$		0		0		0		0						$S=1$ 0.5		1.0		

註) 材料試験により使用骨材の塩化物量が0.1%を超えることを確認した場合、③(中性化深さの「平均値a」欄の()内)に塩化物量を記入する。
この場合、(材)の評点は中性化試験結果により0.5に減算する。

立地条件	①	地震地域係数	②	5,401>4,500のため、 建替事業の補助対象外となります	評点
		四種地域	1.0		
		三種地域	0.9		
		二種地域	0.85		
		一種地域	0.8		

5,401>4,500のため、
建替事業の補助対象外となります

② 北茂安小学校

別表第1 (表面)										鉄筋コンクリート造の建物の耐力度調査票		Ⅳ 学 校 種 別	Ⅴ 整理番号		
										小学校		Ⅲ 結 果 点 数			
Ⅰ 調査学校	都道府県名	設置者名	学 校 名	学校調査番号	調査期間	令和 6 年 7 月 31 日 ～ 令和 6 年 8 月 8 日				調査者	職 名	一級建築士登録番号	氏 名	④ 構造耐力	⑤ 耐力度
	佐賀	みやき町	北茂安小学校	0403	調査者	予備調査者	予備調査者	予備調査者	予備調査者	予備調査者	予備調査者	予備調査者	予備調査者	予備調査者	予備調査者
	校舎	②-3	0+2	一階面積 290 m ²	建築年月 S38年5月	長寿命化年月 S61年	年 月	種類	被災年	内 容	補修年	H24	耐震改修	55	4277
										東亜建設技術(株)	359360	山崎 裕也	④	⑥ 健全度	⑦ 立地条件
										予備調査者	一級建築士登録番号	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④	⑦ 立地条件	
										予備調査者	359360	山崎 裕也	④		

構造耐力	①	(a)	階	方向	構造耐震指標		延年指標		$q = q_s \times q_r \times \alpha$	評 点	評点合計																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
					ls	T	$\eta = \frac{(Is/T)}{0.7}$	鉄骨定着部の係数 α																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	1	桁行方向 X	0.77	1.5	1.15	該当なし () 註) <td>$1.0 \times 1.0 \times 1.0$</td> <td>$1.0 \leq q$</td> <td>1.0</td> <td rowspan="3">⑦</td> <td rowspan="3">⑧ (⑦×⑧) (⑦×50)</td>	$1.0 \times 1.0 \times 1.0$	$1.0 \leq q$	1.0	⑦	⑧ (⑦×⑧) (⑦×50)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
		張間方向 Y	1.35	0.95	2.02		$= 1$	$0.5 < q < 1.0$	直線補間			1.00																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
							$q \leq 0.5$	0.3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	(b)	コンクリート 圧縮強度 k	試験区分	壁・梁 1	壁・梁 2	壁・梁 3	平均値 F _C	k = F _C /20	判 別 式		④	⑨ (④×⑨) (0.3以下は 0.3とす)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
コア試験		15.1	19.8	13.7	16.20	0.81	判 別 式		0.81	40.5 点																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
耐力	②		階	方向	構造耐震指標		靱性指標		$F_r = F_u \times \frac{0.7}{(Is/T)}$	θ	θ の最大値	判 別 式	評 点																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
					ls	Fu	Fu	θ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	1	桁行方向 X	0.77	1.40	1.21	1/172	1/172	$\theta \leq 1/200$	1.0	⑩	⑪ (⑩×20)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
		張間方向 Y	1.35	1.00	0.49	1/250		$1/200 < \theta < 1/120$	0.5			0.83	16.5 点																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	③	基礎構造 β	種別指数 u	基礎の被害予測に関する指数 p				$\beta = u \times p$	判 別 式	評 点																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
				木 杭	0.8	敷地地盤で液状化が予想される 杭基礎でアスベクトル比が2.5以上の建物の その他 (1.0)	上記に該当しない場合				0.8	0.5 < β < 1.0	1.0	24 点																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
④	地震による被災履歴 B	軽微	小破	中破	大破	無被害・被災無し	評 価	評 点																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										

註) 鉄筋コンクリート造架構の上に鉄骨屋根を載せた屋内運動場(Rタイプ)では、鉄骨屋根のRC定着部について検討する。①(保有耐力の「鉄骨定着部の係数、α」欄)には検討結果の比を、()内は最小値、又は、平均値を記載して、係数、αの算出根拠を示すこと。
註) 屋内運動場で、β算出時に一方向地中梁による低減係数0.75を考慮した場合には、「□ 地中梁による低減」にチェックすること。

健	①	経過年数 t	判別式(建築時から経過年数)				経過年数 t ₀				判別式(長寿命化改良後の経過年数)				評 点		評点合計						
	②	経年変化 T	61 年				T=(40-t)/40 = 0.53→0.00				T=(30-t ₀)/40 =				0.00 0 (㉔×25) 0 点								
	鉄筋腐食状況	柱				梁				グレード最低値下				評 点									
		部分的な点錆を認める				部分的な点錆を認める				0.8				0.8 20 点									
		グレード				1.0 (0.8) 0.5				1.0 (0.8) 0.5													
		膨張亀裂、溶け出しは認められない		膨張亀裂、溶け出しは認められない		膨張亀裂、溶け出しは認められない		膨張亀裂、溶け出しは認められない															
		グレード				(1.0) 0.8 0.5 (1.0) 0.8 0.5 (1.0) 0.8 0.5 (1.0) 0.8 0.5																	
	鉄筋かぶり厚さ	(a)		部位		柱1		梁1		柱2(壁1)		梁2(壁2)		平均値 a		評 点							
		コンクリート中性化深さ等及び鉄筋かぶり厚さ a		中性化深さ		3.3		4.7		0.0		3.5		2.88 ()		0.54 5.4 点							
		(b)		部位		柱頭		柱脚		梁1		梁2		平均値 b		評 点							
鉄筋かぶり厚さ b		かぶり厚さ		2.2		2.0		2.6		5.4		3.05											
グレード		(1.0) 0.8 0.5 (1.0) 0.8 0.5		1.0 0.8 (0.5)		1.0 0.8 (0.5)																	
全	③	コンクリート中性化深さ等及び鉄筋かぶり厚さ	3.3				4.7				0.0				3.5				2.88 ()		0.54 5.4 点		55.4 点
	④	躯体の状態 D	(a)		部位		柱1		梁1		柱2(壁1)		梁2(壁2)		平均値 a		評 点						
			コンクリート中性化深さ等及び鉄筋かぶり厚さ a		中性化深さ		3.3		4.7		0.0		3.5		2.88 ()		0.54 5.4 点						
			(b)		部位		柱頭		柱脚		梁1		梁2		平均値 b		評 点						
			鉄筋かぶり厚さ b		かぶり厚さ		2.2		2.0		2.6		5.4		3.05								
			グレード		(1.0) 0.8 0.5 (1.0) 0.8 0.5		1.0 0.8 (0.5)		1.0 0.8 (0.5)														
	⑤	不同沈下量 φ	階段		相対沈下量 ε		スパンシ / L		φ = ε / L		φ の最大値		評 点										
			X		Y		X		Y		X		Y										
			省略																				
			φ ≤ 1/500		(1.0)		1.0		0.8 (0.5)		1.0		0.8 (0.5)										
1/500 < φ ≤ 1/200			直轄補修		1.0		0.8 (0.5)		1.0		0.8 (0.5)												
度	⑥	* 同一階6本以上のコア圧縮強度の平均値が13.5N/mm ² 以下の場合に適用	評 点				評 点				評 点				評 点				55 点				
	⑦	火災による疲 弊 度 S	程度		構造体変質		非構造材半焼		非構造材全焼		煙害程度		当該階の床面積 S ₀		被災率 S = S ₁ /S ₀		評 点						
			被災床面積 S ₁		S ₂		S ₃		S ₄														
			評価後被災面積 S ₁		S ₁ =S ₂ ×0.75+S ₃ ×0.5+S ₄ ×0.25 =		0		0		0												
			S ₁ ≤ 0		(1.0)		0		0		0												
			0 < S ₁ ≤ 1		直轄補修		1.0		1.0		1.0												

註) 材料試験により使用骨材の塩化物量が0.1%を超えることを確認した場合、③(中性化深さの「平均値a」欄の()内)に塩化物量を記入する。
この場合、(材)の評点は中性化試験結果により0.5に減算する。

立地条件	① 地震地減係数	4,277 ≦ 4,500 のため、 建替事業の補助対象となります		価	評 点	
	四 種 地 域			1.0	+③+④+⑤	③ 0.96
	三 種 地 域			0.9	5	
	二 種 地 域			0.8	+1+1+1	
	一 種 地 域			0.8	5	

4,277≤4,500のため、
建替事業の補助対象となります

②学校適正規模の定義及び学校配置現状

1. 学校適正規模についての定義

公立小・中学校の規模：

- ・ 小学校について、規模は概ね12～18学級。
- ・ 中学校について、規模は概ね12～18学級。
- ・ 義務教育学校について、規模は概ね18～27学級。
- ・ 5学級以下の小学校若しくは中学校又は8学級以下の義務教育学校を適正規模校に統合する場合は、小学校・中学校は24学級まで、義務教育学校は36学級までとします。

公立小・中学校の通学距離・時間：

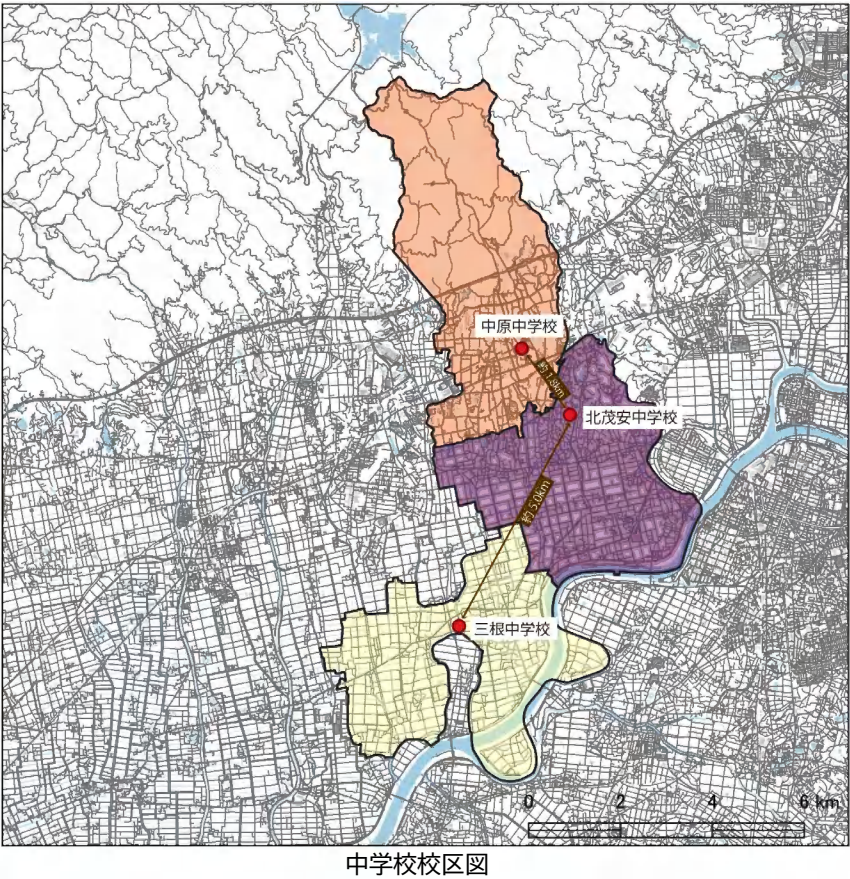
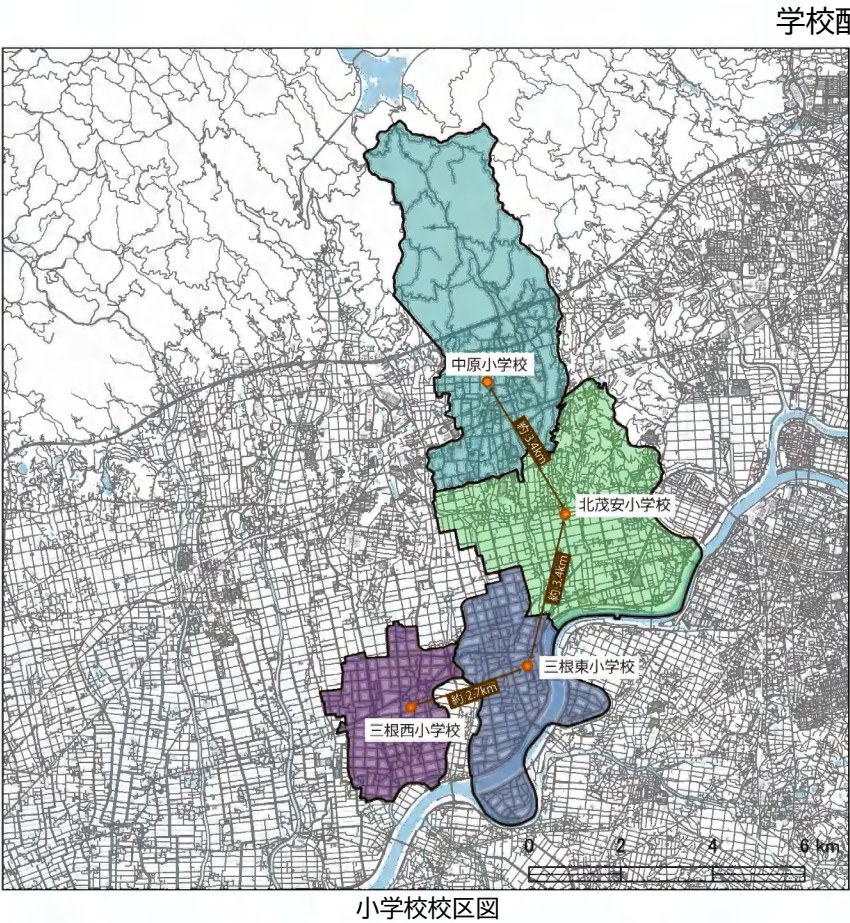
- ・ 通学時間は「おおむね1時間以内」を目安。
- ・ 地域の実情や児童生徒の実態に応じて1時間以上や1時間以内に設定。
- ・ 小学校について、通学距離は概ね4km以内。
- ・ 中学校について、通学距離は概ね6km以内。
- ・ 義務教育学校について、通学距離は概ね6km以内。

義務教育学校とは、小学校の6年間と中学校の3年間で一貫した教育を行う学校のことです。この期間、子どもたちの心身の発達に応じて基礎的な段階から伸ばしていくことを目的に、2016年に学校の種類の一つとして制度化されました。

※学校教育法施行規則、義務教育諸学校施設費国庫負担法、公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律および公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引を基に作成

2. 学校規模・配置現状-概要

- ・ 町内の小学校4校、中学校3校の中には小規模校が多く、適正規模校は中原小と北茂安小のみです。中学校3校はすべて6学級になっており、小規模校に該当します。
- ・ 町全体の学校配置については、町の北側にある中原中と北茂安中の区間は直線距離で約2km以内に配置されていて、小学校は概ね均等的な距離で配置されています。中学校では、南側にある三根中が北茂安中から5km以上離れており、分布に偏りがあります。



学校規模現状					
学校	児童生徒数 (R4)	児童生徒数 (R5)	普通学級数 (R4)	普通学級数 (R5)	規模分類 (R5準拠)
中原中学校	191	180	6	6	小規模校
中原小学校	438	449	13	13	適正規模校
北茂安中学校	257	252	7	6	小規模校
北茂安小学校	575	604	17	17	適正規模校
三根中学校	150	177	5	6	小規模校
三根東小学校	158	149	6	6	小規模校
三根西小学校	186	187	6	6	小規模校

資料：学校施設台帳

参考：国土数値情報

②学校適正規模の定義及び学校配置現状

3. 小規模校のメリット・デメリット

項目	メリット	デメリット
教育面 (学習・生活面)	学校規模・配置に関し、学校の大半は小規模校である ・児童生徒同士、児童生徒と教職員、保護者・地域と教職員の関係が密である ・地域や関係団体とつながりやすく充実した活動が展開できる ・全校児童生徒の状況（居住地の地域性、家庭環境、兄弟関係等）を全ての教職員が情報を共有、把握することができ、全教職員で全校児童生徒の指導をすることができる ・児童生徒に目が行き届いきやすいため、学力の定着がしやすい	・クラス替えができない小学校が存在する ・クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない恐れがある ・クラブ活動や部活動の種類が限定される ・児童生徒指導上課題がある子供の問題行動にクラス全体が大きく影響を受ける ・多様な物の見方や考え方、表現の仕方に触れることが難しい ・児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすい ・児童生徒から多様な発言が引き出しにくく、授業展開に制約が生じる ・児童生徒間の意見交流の機会が少ない
教育面 (指導体制面)	現状の小規模校に関しては、 ・児童生徒の声を聴きやすく、意見や要望を教育活動に取り入れやすい ・教職員にとって中心的な役割を若いうちから多く経験できる	現状の小規模校に関しては、 ・教職員による多面的な評価が難しくなる ・クラブ活動や部活動の指導者確保が困難となる ・教職員同士が切磋琢磨する環境を作りにくく、指導技術の相互伝達が難しい ・クラブ活動や委員会、行事などではできる範囲に限られる
教育面 (安全・健康面)	・通学距離・時間はほぼ基準内であり、児童生徒にかかる負担が低い ・小規模校に関しては感染症対策が取りやすい	特になし
学校運営面	・学校行事や調査などが少人数でやりやすく、まとめやすい ・教職員にとって中心的な役割を若いうちから多く経験できる ・校長の学校経営方針が伝わりやすく、学校の一体化が実現しやすい	・教職員個人の力量への依存度が高まり、教育活動が人事異動に過度に左右されたり、教職員数が毎年変動することにより、学校経営が不安定になったりする可能性がある ・教職員一人当たりの校務負担や行事に関わる負担が重く、校内研修の時間が十分確保できない ・教職員の人数が少ないため感染症が流行すると学校運営に支障が出る
経済・社会面	・地域住民との関わり合いが密接にある学校がすべて残される	特になし

※このまとめは文部科学省の手引き、他自治体の事例の中全てのメリット・デメリットを集約するのではなく、ポイントだとされるものやみやき町に該当するもののみまとめられる。

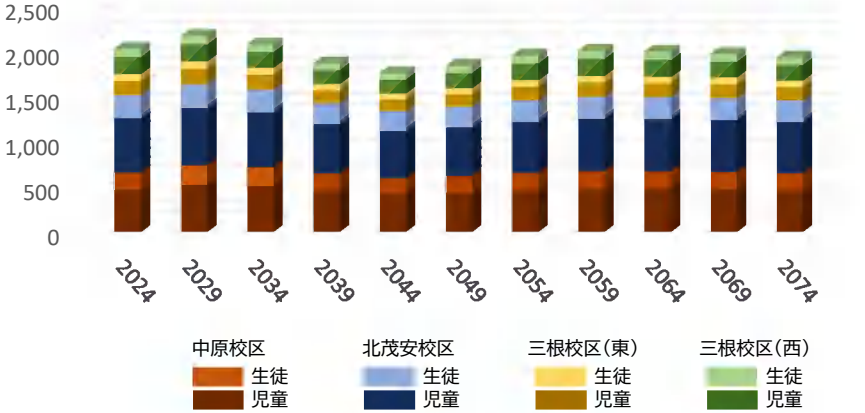
②学校適正規模の定義及び学校配置現状

4. 将来児童生徒数推計

- 社人研の市町村単位推計ソフト(令和6年6月版)を使用し、推計のベース人口となっている「R2年国勢調査」を校区毎の住民基本台帳人口(R6.8月末帳)に置き換え、みやき町過去5年間の児童・生徒比率と掛け合わせて推計を行いました。
- 2074年まで現在の学校を維持する場合でも複式学級の発生する可能性が極めて低いと想定されます。また、三根中学校ではクラス替えのできない学年がこれから増える可能性が高まります。

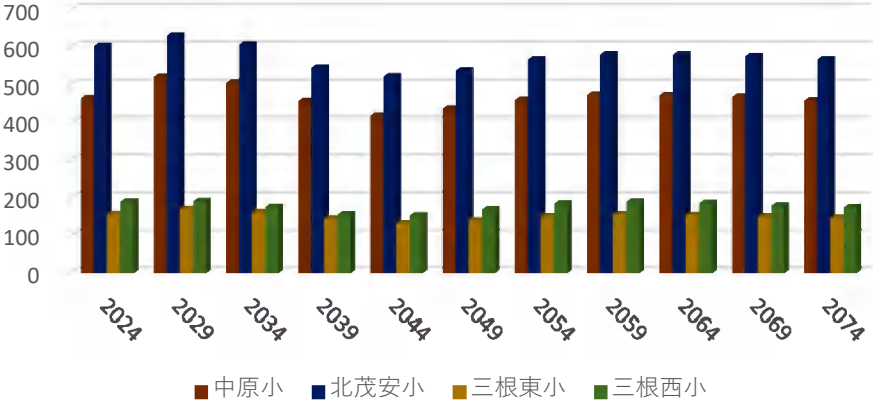
① 校区別将来児童生徒数

校区別		R6	R11	R16	R21	R26	R31	R36	R41	R46	R51	R56	増減率 (%)	
将来児童・生徒数														
校区		2024	2029	2034	2039	2044	2049	2054	2059	2064	2069	2074	2044年迄	2074年迄
中原校区	児童	465	522	506	457	419	437	461	474	472	469	459	-9.9	-1.3
	生徒	194	218	212	191	175	183	193	198	197	196	192	-9.9	-1.3
北茂安校区	児童	604	631	607	546	523	538	568	581	581	576	568	-13.4	-5.9
	生徒	255	266	256	230	221	227	239	245	245	243	240	-13.4	-5.9
三根校区(東)	児童	157	171	162	145	132	140	151	156	154	151	147	-15.8	-6.4
	生徒	75	82	78	70	64	67	72	75	74	72	71	-15.8	-6.4
三根校区(西)	児童	190	191	176	156	154	170	185	190	186	180	175	-19.1	-8.0
	生徒	91	92	84	75	74	81	89	91	89	86	84	-19.1	-8.0
合計	児童	1,416	1,515	1,451	1,304	1,228	1,286	1,365	1,402	1,393	1,376	1,349	-13.3	-4.7
	生徒	616	658	630	566	533	558	593	609	606	598	586	-13.4	-4.8



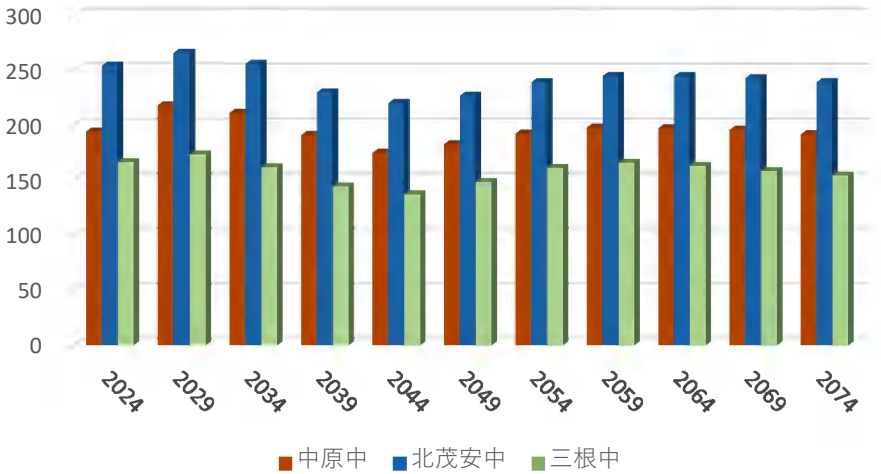
② 小学校別将来児童数

小学校		R6	R11	R16	R21	R26	R31	R36	R41	R46	R51	R56	増減率 (%)	
将来児童数(人)														
学校名		2024	2029	2034	2039	2044	2049	2054	2059	2064	2069	2074	2044年迄	2074年迄
中原小		465	522	506	457	419	437	461	474	472	469	459	-9.9	-1.3
北茂安小		604	631	607	546	523	538	568	581	581	576	568	-13.4	-5.9
三根東小		157	171	162	145	132	140	151	156	154	151	147	-15.8	-6.4
三根西小		190	191	176	156	154	170	185	190	186	180	175	-19.1	-8.0
合計		1,416	1,515	1,451	1,304	1,228	1,286	1,365	1,402	1,393	1,376	1,349	-13.3	-4.7



③ 中学校別将来生徒数

中学校		R6	R11	R16	R21	R26	R31	R36	R41	R46	R51	R56	増減率 (%)	
将来生徒数(人)														
学校名		2024	2029	2034	2039	2044	2049	2054	2059	2064	2069	2074	2044年迄	2074年迄
中原中		194	218	212	191	175	183	193	198	197	196	192	-9.9	-1.3
北茂安中		255	266	256	230	221	227	239	245	245	243	240	-13.4	-5.9
三根中		166	174	162	144	137	148	161	166	163	158	154	-17.6	-7.3
合計		616	658	630	566	533	558	593	609	606	598	586	-13.4	-4.8

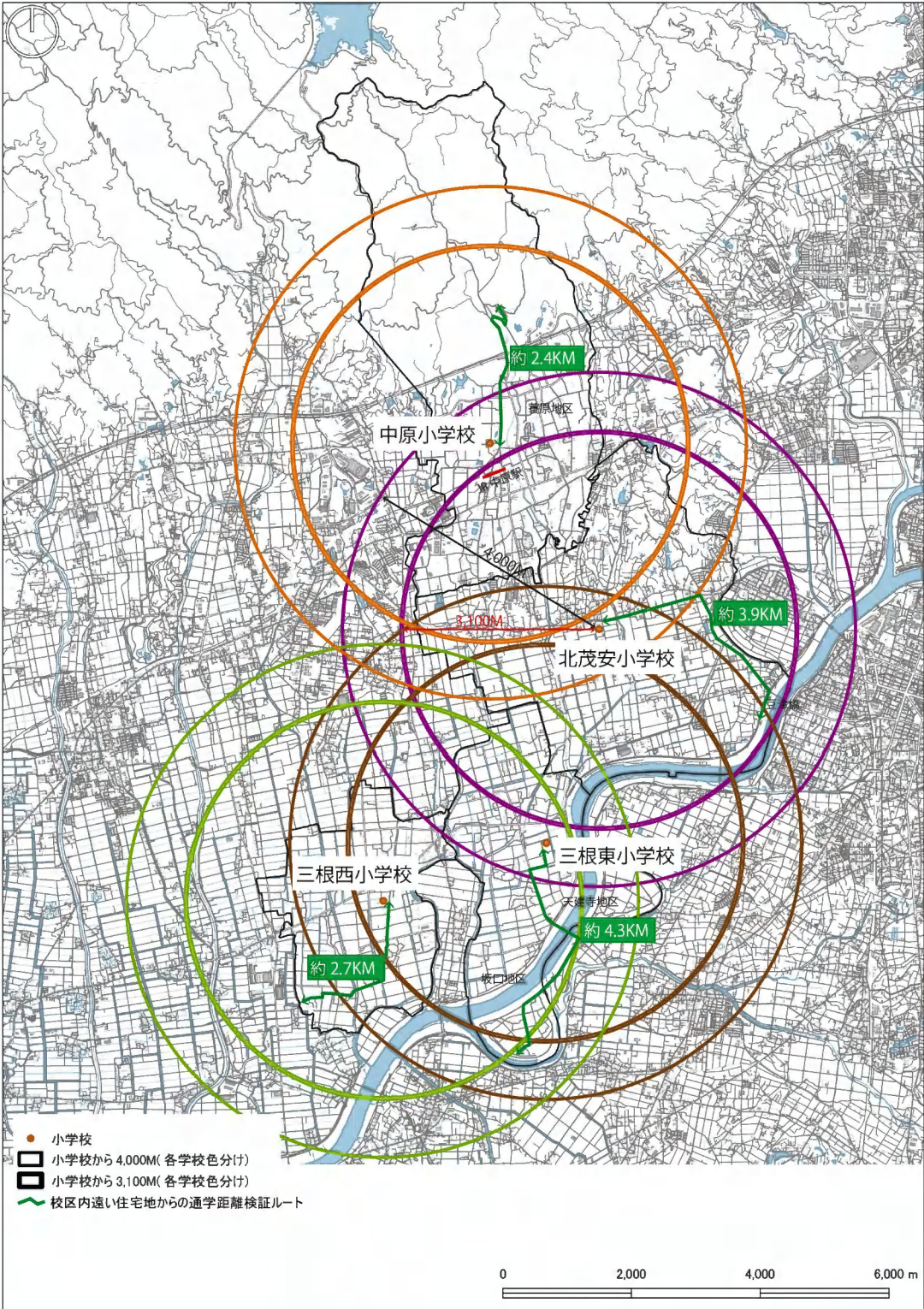


※上記推計は町独自推計を基に計算

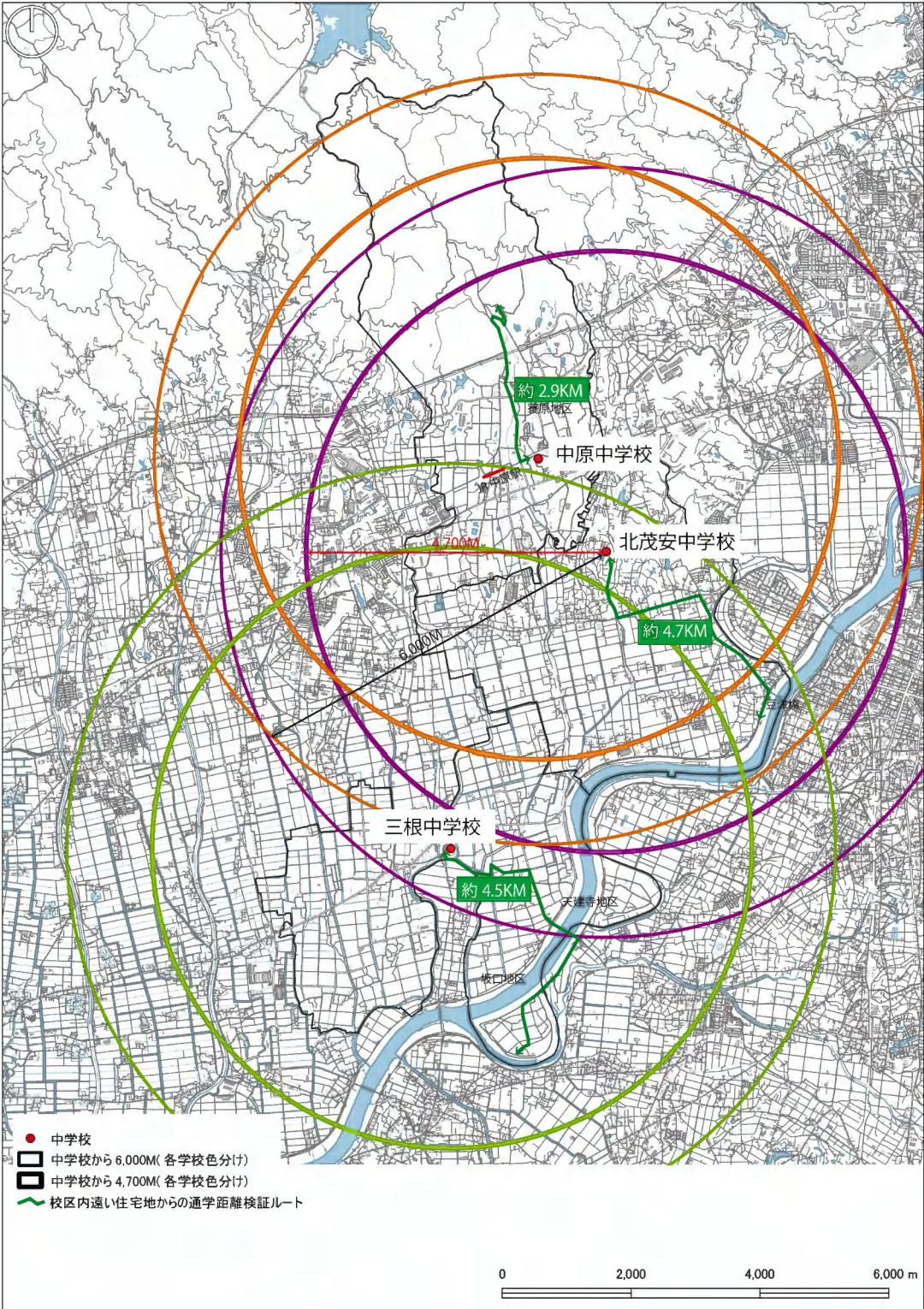
②学校適正規模の定義及び学校配置現状

5. 学校規模・配置現状-通学距離検討

- 各学校のサービス圏域について検証を行います。外側の円は直線距離「小学校4km・中学校6km」になりますが、内側の円は学校から実際歩く距離を直線半径で表すと「小学校3.1km・中学校4.7km」になります。
- 通学距離の現状については、小学校は概ね4km以内、中学校は概ね6km以内となっており、各校区の中で、学校から最も遠い住宅地までの通学経路を仮定し、移動距離を測定すると、小学校では3km以内が多く、最も遠いのは三根東小校区の坂口地区の4.3kmです。



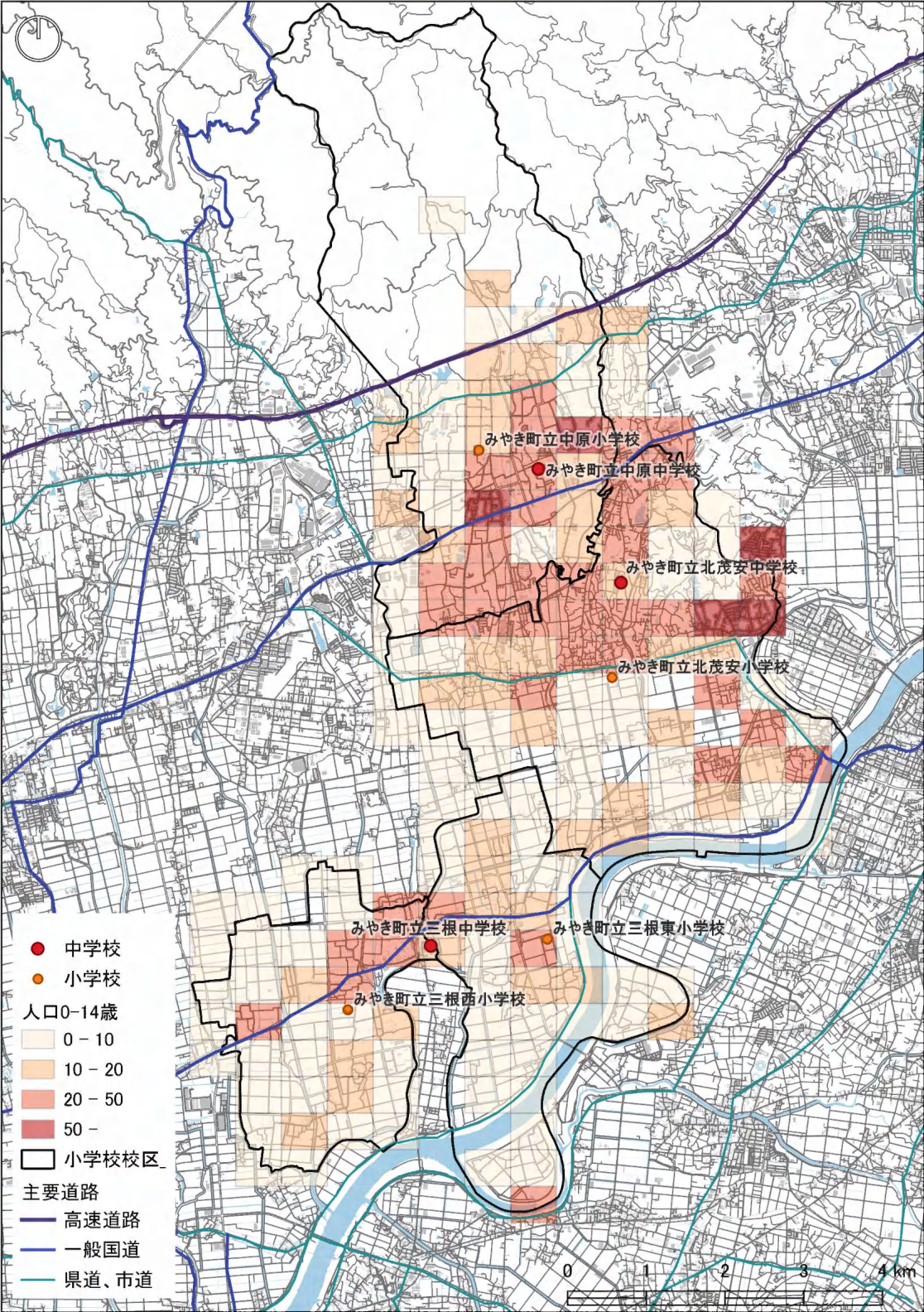
通学距離図 小学校



通学距離図 中学校

②学校適正規模の定義及び学校配置現状

6. 学校規模・配置現状-学校配置と人口分布検討
- 下の図は町内における2035年の人口0歳～14歳の分布シミュレーションです。



出典:国立社会保障・人口問題研究所
参考:2035年 0歳～14歳人口分布(500メートル人口メッシュ)・学校配置

7. 施設現状の整理

項目	中原小	中原中	北茂安小	北茂安中	三根東小	三根西小	三根中
教室数	33	26	41	29	22	20	20
施設面積							
校地面積	24,490	26,441	26,597	37,404	19,774	22,850	23,470
校舎保有面積	6,241	5,797	7,414	5,471	3,693	3,496	4,933
屋内運動場面積	1,192	1,447	1,459	1,263	702	758	1,486
建物健全度(加重平均)	38	42	48	40	51	42	93
立地条件							
アクセス性(校区内から)	○	◎	◎	○	○	◎	◎
アクセス性(町全体から)	△	○	◎	◎	○	△	○
他機能との関連性※3	○	◎	◎	△	△	○	◎
災害リスク							
洪水浸水想定区域	指定なし	指定なし	0.5m ～ 3.0m	指定なし	0.5m ～ 3.0m 一部 (3.0m ～ 5.0m)	0.5m ～ 3.0m 一部 (3.0m ～ 5.0m)	0.5m ～ 3.0m
土砂災害区域	指定なし	指定なし	指定なし	隣地:急傾斜地の崩壊警戒区域	指定なし	指定なし	指定なし

出典:学校施設台帳、国土数値情報等

敷地面積、健全度、その他条件等を勘案し、統合案及び統合先を設定します。

8. 新しい教育環境づくり案

案	Case A: 現状維持	Case B: 三根東小・西小 集約	Case C: 中学校1校に 集約	Case D : 義務教育学校 3校整備	Case E: 小学校・中学校 1校ずつ	Case F: 全町で義務教 育学校1校
中原中学校 校区	中原中学校 小規模校	中原中学校 小規模校	(閉校)	(仮:中原学園) 大規模校	(閉校)	(閉校)
	中原小学校 適正規模校	中原小学校 適正規模校	中原小学校 適正規模校	(閉校)	(閉校)	(閉校)
北茂安中学校 校区	北茂安中学校 小規模校	北茂安中学校 小規模校	(仮:みやき中学校) 適正規模校	(仮:北茂安学園) 大規模校	(仮:みやき中学校) 適正規模校	(仮:みやき学園) 過大規模校
	北茂安小学校 適正規模校	北茂安小学校 適正規模校	北茂安小学校 適正規模校	(閉校)	(仮:みやき小学校) 過大規模校	(閉校)
三根中学校 校区	三根中学校 小規模校	三根中学校 小規模校	(仮:三根小学校) 適正規模校	(仮:三根学園) 適正規模校	(閉校)	(閉校)
	三根東小学校 小規模校	(閉校)	(閉校)	(閉校)	(閉校)	(閉校)
	三根西小学校 小規模校	(仮:三根小学校) 適正規模校	(閉校)	(閉校)	(閉校)	(閉校)

※:薄い着色は小学校、濃い着色は中学校及び義務教育学校